

そよ風通信

第2号

2020年2月発行

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc/>

もちつき大会



近藤社長（右）と安藤総長（左から2人目）の模範演技



もちをつく看護師さんを見つめる皆さんの熱い視線…



おいしいもちをありがとうございました

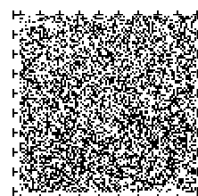
12月5日に、近喜商事株式会社のご厚意のもと、もちつき大会が開かれました。

毎年この時期に行われるもちつき大会は、近喜商事株式会社先代代表取締役の故近藤喜代春氏の「コロニーの子どもたちに、日本の伝統であるもちつきを楽しんでもらいたい」との願いから、旧愛知県心身障害者コロニーにもち米などが寄贈され、1972年以降、毎年開催しているものです。

48回目となる今年も「よいしょ、よいしょ」の掛け声の中、ほかほかのおもちがたくさんつき上がり、子ども達はうすの中でお米がおもちに変わる様子を楽しそうにのぞいたり、あんこと一緒につきたてのおもちをおいしそうにほおばったりしていました。

Contents

もちつき大会開催の様子	1
胃ろう・栄養グループ外来	2・3
病棟紹介（子どものこころ2病棟）	4
親子療育の家紹介	5
Topics	6・7
県民講座開催報告、第3期工事のお知らせ	8



第2回

胃ろう・栄養グループ外来「胃ろうから注入できる ミキサー食を作ろう!」開催報告

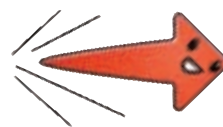
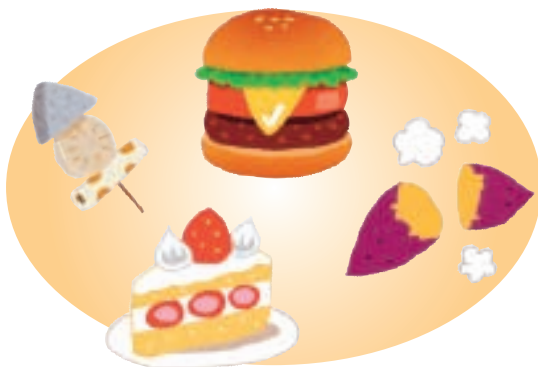
小児外科
管理栄養士

毛利 純子
山崎 茂子

今年度から新たに開催している上記グループ外来の第2回を11月29日に開催しました。毎月診療している「胃ろう・栄養外来」の実習バージョンです。

毎月の通常外来は小児外科医と管理栄養士で担当しており、胃ろうの造設についての説明や胃ろう・栄養に関する相談に応じています。その中で「胃ろうからのミキサー食注入」の話もよく話題にあがります。「ミキサー食を注入する」、あまりピンとこない方もいらっしゃるかもしれません。実際10年ほど前までは胃ろうを持つ重症心身障害児者の方のご飯はほぼ3食とも栄養剤でした。

しかし最近では胃ろうからミキサー食を注入されている方がかなり増えています。ミキサー食の良いところはいろいろありますが、家族と一緒にのご飯を楽しめて、季節のものが摂れて、さらに多くの場合お通じがよくなり、そのため肌の調子がよくなることも多く、バランスが良いものであれば栄養学的な欠落が起こりにくい、ということです。ただ、偏っている食材ではそのような効果は期待できず、知らないうちに体重が減ったり増えたりと落とし穴もあります。また、食事アレルギーをお持ちの方、または今まで栄養剤もしくはミルク以外に摂ってなかった方は事前に担当の医師に相談することが大切です。ミキサー食の注入を始めたい方、進めたい方に毎月の外来でも当院のミキサー食を準備して、硬さや量を見てもらったりしているのですが、なかなかそれだけでは伝わらないし、第一食事なので家族ごとに違う雰囲気があって当たり前！実習を通して各自持ち寄ったアイデアやコツを共有できたらいいな、と思ったのがこのグループ外来の始まりです。今年度の第1回は8月に開催し、今回は2回目でした。参加者は胃ろうを造って間もない方から、経験年数十数年のベテランさんまで。基本的に各家族食事1品を持ち寄って、わいわい言いながらミキサーにかけて、ポイントを教えあいながら、試食（家族も本人も）してという流れです。もちろん病院からも紹介メニューあり。今回のテーマはずばり「これもミキサーにかけられる？チャレンジしてみよう!」ということでメニュー



は多岐にわたりました。シューマイ（野菜を混ぜるとかかりやすい!）、焼き芋（絹ごし豆腐でクリーミーに!）、某ハンバーガーチェーンのバーガーセット（味見でびっくり、チーズバーガーもいつものお味です）にコーラまで（中高生の患者さんも大喜び!）、高野豆腐（このチョイスは母の愛情ということにみんなでほっこり。これも+野菜で◎）、あんまん（きれいなピンクになりました）、難物とされるごぼうとゴマの和惣菜やこんにゃくのおでん（ポイントは単一食材にしない、かな）、みんな大好きなごやんにショートケーキまで。今回の結論としては「なんでもできるんだ!!!」でした。病院HPのレシピ集にアップしますので詳細はそちらをご覧ください。

それと、前回も思ったのですが、私も含めて食べるのが大好きな食いしん坊さんが多いということ、そして食事の話や料理の話をする時、さらに食べ物を前にした時、患者さんとご家族はとってもいい表情^^この外来に来られる方だけでなくみなさん、おうちや学校で、毎日子育てに介護ととっても頑張っていると思います。その中で、どうやって手を抜いて、子どもと食事を楽しむか。お母さん、お父さんたちが疲れ果ててしまっははいけません。頑張りすぎず、継続して、がモットーです。また栄養学的な面からも1日1~2食は栄養剤を用いる方がうまくいくことが多いです。今回のグループ外来ではいろんな文明の利器、公共サービス、レストランの電源などのキーワードもでてきました。始め方、進め方にお悩みのことがあれば毎月第3木曜日午後の「胃ろう・栄養外来」で対応させていただきます。

また、来年度は3回グループ外来を予定しています。開催時は適宜HPでお知らせいたします。ご興味のあるかたはぜひご参加ください。



中央病院のホームページから
「グループ外来レシピ集」
がご覧いただけます。



中央病院病棟紹介

「強度行動障害の支援に力」

～子どものこころ2病棟（児童精神科病棟）の取り組み～

子どものこころ2病棟師長 白瀧 美智留

強度行動障害とは、自傷行為や、他害、器物破損、大声や大泣が何時間も続くなど周囲の人への影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態と言われています。当病棟にはこういった行動障害のある患者さんが多く入院しています。そして、その患者さんの入院に対し様々な対応を行っています。

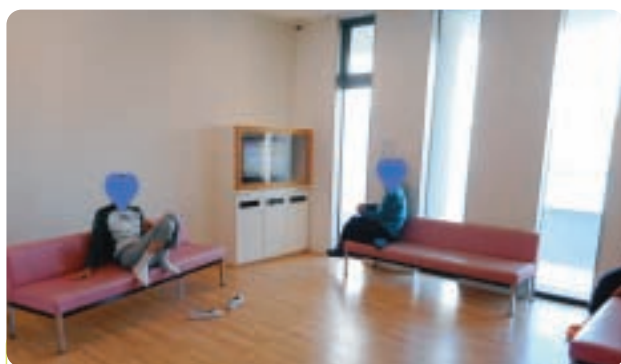
行動障害のある患者さんが新しく入院された場合、まずは、そういった行動をとる理由を探ることから始まります。入院されている患者さんの多くは、自分の気持ちや要求を言葉で表現する事が困難です。どういう場面でこういった状況のときに問題となる行動をとってしまうのか、患者さんを観察し、前後の環境の変化など、考えられる原因がある場合はできる限り早めに対処し、可能であれば原因を排除します。他の患者さんの声に反応して他害してしまう患者さんの場合は、早目に別の部屋へ誘導するなどといった対応や、問題とならない拘りへ移行できるような取り組みも行っています。また、散歩や他の余暇活動で、暇な時間を楽しく過ごしてもらうことで問題となる行動の機会が少なくなるようにしています。

排泄に関する行動に対しては、排便の有無を毎日確認し、医師の指示により薬を使用したり、定期的なトイレ誘導などの排便管理を行うと同時に、問題となる行動を起こした場合は、過剰に反応せず、淡々と介助を行うことでその行動が患者さんの要求の実現とならないように対処しています。

また、職員の疲弊防止に備え、掃除しやすい壁や床の素材の工夫も行っています。他の環境の面でも、器物破損のリスクに対し、窓や壁、ドア、トイレ、備品などは破壊されにくい工夫を施しています。

行動障害に対してやむなく行う個室隔離や拘束対応については、平成16年から行動制限最小化の取り組みを行っています。やむを得ず隔離した場合も当病棟で作成した“行動制限看護アセスメントスコアシート”を使用し、客観的に患者さんをアセスメントして開放観察を積極的に行っています。その結果、隔離者の数自体はあまり変化はありませんが、実際に隔離している時間はかなり減少しています。拘束者も年々減少し、平成25年以降は身体疾患の治療における手術や点滴のための拘束に限られ、年間1～2件程度となっています。

そしてこの取り組みでわかったことは、行動制限を減らせば、問題となる行動も減るということです。今後も、患者さんのQOL向上を図り、少しでも安心しリラックスできる環境で、問題となる行動を減らし、自由に快適に過ごしてもらうことを目標に取り組んでいきたいと思っております。



テレビを見てくつろぐ患者さんの様子。テレビは破損を防ぐため、全面がアクリル板の箱に入っています。



患者さん同士の刺激を少なくするため、一人用の机で壁を向いて食事をしていただいています。

療育支援センター紹介

親子療育の家

本館棟2階にある「親子療育の家」。今回は、この「親子療育の家」について紹介します。

○親子療育の家とは…

発達に心配のあるお子さんと保護者の方を対象に短期間の宿泊を通してお子さんのことを理解し、子育てについて考えるお手伝いをするところです。お子さんは担当職員と集団療育に参加し、保護者の方はグループミーティングやセッションでお子さんへの理解を深めます。

○集団療育では何をするの？

担当職員が他のお子さんや職員との遊びを観察しながら、人と関わることの楽しさがより広がるように支援します。担当職員は、お母さんの思いや日常生活の様子を聞いたうえで支援を考え、お子さんのペースに合わせた関わりをします。



○グループミーティングでは何をするの？

子育ての悩みなどをグループで話し合い、より良い子育ての手がかりを見つけていきます。「外出時は大変！みんなどうしてる？」「偏食があって毎日の食事が大変！」「家族との関わり方に悩んでいる…」「初めて〇〇にチャレンジしたよ！」など、様々な話題があがります。



○いくつかコースがあると聞きました…

次の5つのコースがあります。

ベーシックコース（3泊4日）	児童精神科医師に約90分間相談ができます
キラリ発見コース（2泊3日）	お子さんの困り感やキラリとした良いところと一緒に見つけていきます
ペアレントトレーニング入門コース（3泊4日）	お子さんの「行動の見方」や「ほめ方」について学びます
小学生コース（1泊2日）	夏休みに小学1～6年生のお子さんを対象としたコースです
パパと一緒にコース（1泊2日）	父親同士が交流しながら、お子さんとじっくり関わっていくコースです

○利用された方の感想を聞いてみたい！

「親子療育の家」利用後に寄せられた声を一部お届けします。

最初はどきどき不安だったけど、子どもも楽しく過ごせました！私自身、ゆっくり子供との時間が過ごせて穏やかでした！他のお母さんお父さん達と意見交換できて、涙あり笑顔ありのとても貴重な時間でした！精神科の先生との面談も、質問したいことしっかりまとめていっぱい聞いて、色々すっきりしたし発見もありました！3泊4日間本当に良い体験となりました！

本人は知的障害を伴う自閉症です。現在、発語はゼロです。家庭では何をするのか分からないので、目が離せず、家庭内のストレスが強くてとても大変な子です。親子療育の家に参加して、家事の負担が減り、子ども達ともゆったりとした時を過ごす事ができ、新たな発見事もたくさんありました。

4日間家事から解放されて、子どものことをゆっくりと考える時間ができたこと、ママさんパパさんおばあちゃんなどたくさんの方とお話してたくさん情報が得られたこと、精神科の先生と90分もお話をする時間をいただき、息子を育てていくうえで大切なことに気づけたこと。どれも貴重な体験でした。ここでの出会いに感謝して、息子が自分を肯定して楽しく過ごせるようサポート頑張っていきたいです。

毎回、来る前はどんな人たちと一緒にのかな、仲良く遊んでくれるかな、ママと私は話せるのかなと思いつつ来ますが、来てしまうとそんな事はどこかへとんでいき、楽しい時間を過ごせます。定型発達の子のママには話しても伝わらない心のモヤモヤも、ここに来てママたち、職員さんとお話すると、スッキリします。いつまでも続いてほしいと思う、ここの空間、空気が大好きです。

コロナ時代の「緑の家」の事業を引き継いだ「親子療育の家」。建物も新しくなり、今年度はキャンセル待ちが出るほど、多くの方に関心を持っていただき、利用していただきました。来年度の年間予定につきましては、決まり次第総合センターホームページ、総合センター内掲示板等でお知らせいたします。

Topics

ハッピーハロウィン!

Happy Halloween



～中央病院編～

10月31日、まちに待った「ハッピーハロウィンパーティー」を開催！こばと棟では、朝から職員が様々な衣装を身につけて登場です。利用者さんの衣装も準備され、病棟はいつもと違う雰囲気になっていました。

「ハッピーハロウィン！」の掛け声で、パーティーの始まり始まり～♪アナと雪の女王でおなじみのアナや、エルサにオラフ、ディズニーキャラクターのスティッチとデール、ミニオンや千と千尋の神隠しのかおなし、ピエロなど、色とりどりの個性豊かな衣装を身にまとった保育士13名が各病棟を巡回しました。音楽に合わせて色々な楽器の演奏とダンスをプレゼント。利用者さん、患者さんともキャンディやカードをプレゼントされると嬉しそうに微笑む姿が多く見られました。また、パレードの他にも病棟ごとに楽しめる企画を考え、楽器演奏、ダンス、歌、クイズ、ジャンケンゲームなどを一緒に行えたことで、一体感を感じられるイベントとなりました。

パーティーは、2時間15分という長い時間をかけて全病棟を巡回し、無事に終了。こばと棟から本館棟に移動中、リハビリテーション前にいた患者さんとそのご家族に出会った時の驚いた表情の後の笑顔がとても印象的でした。



～はるひの家編～

10月26日、ハロウィンを楽しむ会を開催！

療育支援センターになって初めてのハロウィンパーティーです。みんなで仮装してゲームやおやつを楽しみました。



カボチャのおぼけを使ったゲームで景品をゲット♪



みんな普段とは一味違う衣装やマントを身に着け気分も盛り上がりました！

クリニックラウン来訪！

11月11日と12月6日の2日間、認定NPO法人日本クリニックラウン協会さんのご厚意により、総合センターにクリニックラウンが訪問してくださいました。

はるひの家では、2人のピエロが見せてくれる素晴らしい芸に子ども達の目は思わず釘付け。

また、実際にピエロの真似をして色々な芸にチャレンジも。みんな上手にできました^^



中央病院では、クリニックラウンが現れた瞬間、病棟全体が陽気な雰囲気になって、みんなが笑顔に。素敵な時間を過ごすことができました。



県民講座開催報告

12月15日、名古屋市中区の電気文化会館において医療療育総合センター県民講座を開催し、111名の参加がありました。

総合センターとなって第1回目となる今回は、「これからの障害者医療と療育～医療療育総合センターの新たな取り組み～」と題し、安藤久實総長の講話を始めとして、中央病院、発達障害研究所、療育支援センターの機構紹介も併せて行いました。

中央病院からは、門野泉リハビリテーション室長兼小児整形外科医長が「生きる喜びを支えるリハビリテーション」をテーマに講演しました。「リハビリテーション」の語源から始まり、様々な職種が患者さんのために「ONE TEAM」で力を尽くす中央病院リハビリテーション科の取り組みなどについて紹介し、最後は、リハビリテーションの目指すものは“最高のQOL（生活の質）の実現”であり、「“最高のQOL”がその人にとって何なのか常に模索するのがリハビリテーションである」と締めくくりました。

また、発達障害研究所からは林深遺伝子医療研究部長が講演を行い、「わからなかった疾患をわかるようにする、そして治せるようにする」をテーマに、遺伝医学とは何か、遺伝性疾患の原因はどうやって調べられるのか、遺伝性疾患の治療の試みなどについて講演を行いました。現在、自身に取り組んでいる遺伝性疾患の研究について分かりやすく解説し、遺伝性疾患の原因探究はとても大変だけれども、ゲノム手法の急速な発達により、「わからない」疾患だった遺伝性疾患の原因が次々に明らかになっており、そのことにより疾患の原因に応じた治療や療育ができるようになってきたとまとめました。

総合センターを支える病院、研究所、療育支援センターの連携の重要性を感じた3時間半でした。



写真左から、安藤久實総合センター総長、門野泉リハビリテーション室長兼小児整形外科医長、林深遺伝子医療研究部長

お知らせ



(完成予想図)

元発達障害研究所取壊し工事等第3期工事の実施に伴い、外来者駐車場の一部使用を制限しております。

工事期間中は、駐車場の仮移転や工事車両の通行など、医療療育総合センターを利用される皆様には、大変御不便をおかけしますが、御理解・御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

〔編集〕 広報委員会

(委員長) 加藤 篤・深田 斉秀・有賀 恵美子・福士 大輔・塚本 尚史・後藤 栄子・兵頭 香・橋爪 亮典